


観光社会資本の事例

テーマ	四万十川最古の沈下橋(一斗俵沈下橋)
【施設の状況写真】	
	
一斗俵沈下橋全景(下流より望む)	田園風景と調和し、独特の景観を造り出している。
<p>忙しい日常の中でつい忘れてしまう大切なもの。水の香りや太陽のすがすがしさ、あるがままの自然を受け入れる沈下橋。ここには人が太古の昔から共存してきた、風景があります。</p>	
【施設の利用写真】	
	
夏には四万十川の河童(子供)たちの声が溢れる。	今なお、散策道・生活道など地域に愛され、利用されている。
<p>昔は生活道として、今は子供たちの川遊びのステージや流域住民の散策道、四万十川の歴史そのものとして、広く親しまれている。</p>	
【観光資源としての利用状況】	
<p>地域住民の生活道路・散策道等として、今でもなくてはならない橋として利用されると共に、四季折々の沈下橋は、四万十川の特徴をいかした景観で、県内外からの写真愛好家の名所として四万十川観光に一役買っている。</p>	

テーマ	四万十川最古の沈下橋(一斗俵沈下橋)
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 一斗俵沈下橋</p> <p>所在地 高知県高岡郡四万十町米奥字城鼻(旧 窪川町)</p> <p>事業名</p> <p>事業主体 四万十町(旧 窪川町)</p> <p>事業期間 昭和10年</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>四万十川流域は、台風の常習圏で、毎年のように水害を受けてきました。</p> <p>その中で、一斗俵沈下橋は、昭和10年に完成した四万十川流域最古のもので、鉄筋コンクリート造り、橋脚九連、橋長61m、幅員2.5mで全体的にやや反っていて、橋桁の中央部が厚くなっているのは、災害によって設計変更した名残りです。</p> <p>架橋以来60余年、車両は通行できなくなったが徒歩による通行は可能で、今でも地域住民には無くてはならない橋として機能しています。この沈下橋のはたしてきた功績は大きく、その上四万十川の特徴をいかした景観としての沈下橋はすてがたく、過ぎ去った昔からの歴史的な役割をあわせもつことにより、逆に保存される建造物として残されることになった。</p> <p>この橋は、平成12年、四万十川を代表する文化遺産として、国の有形文化財として登録され現在四万十川観光に一役買っています。</p>	
【位置図】	
<p>【関連ホームページ】 四万十町役場 http://www.town.shimanto.lg.jp</p>	